

編集後記

● 編集後記 ●

“皆様、さようなら！” 1955 年以来、38 年の長きに亘り、ご愛顧戴いた緑と淡いブルーの『鉄と鋼』誌はこの号で引退し、新年号からは 10 月号 (N561) にて紹介の明るい表紙の A4 判へと大きく飛躍致します。

平成 4 年も大きな出来事が多々ありましたが、『鉄と鋼』誌の編集においても近年にない重要な、変革を求められた年となりました。

上部機関である編集委員会にて『鉄と鋼』誌編集の基本方針が協議され、従来の論文誌主体から情報誌としての性格も合わせた魅力のある会誌とするようにとの方針が下りました。これは、会員の多数を占める現場技術者などに論文が殆ど読まれないということに起因しています。一方、『鉄と鋼』誌は金属系では他誌への引用例が極めて多く、国際的に高く評価されている和文論文誌の代表例と言え、安易に情報誌化するのも問題があり、真の読者を失うことになることと危惧されます。

この方針に応えるために、情報誌に相当する“ISIJ 情報ネットワーク”を充実させることとし、鉄鋼会社 7 社の情報誌編集の専門科を当分科会専門委員として参画戴き、記事の企画、構成、収集法、レイアウト・デザインなどについて 8 月、9 月にかけて集中的に議論し、編集の基本方針を固めて新『鉄と鋼』誌へ反映させることに致しました。“やさしい解説”記事、連載記事を企画中です。期待して戴きたい。ただし、抜本的改革には記事収集等の特別の経費も必要であり、大きな壁となっているのも事実です。会員の皆様に、興味ある解説記事の積極的な投稿をお願い致します。

1 月号より開始した“現場技術報告”も上記改革の一つです。役立っていますでしょうか。ご意見をお寄せ下さい。問題は、自主投稿が少ないことです。投稿後、ただちに掲載の準備に入りますので、プライオリティ、新規性、斬新性などをアピールするには最高の場と言えます。春・秋講演大会の図表で十分です。掲載後、データを補足して論文として投稿も可能です。若手技術者の報告書作成のトレーニングにも有効ですので大いに活用して戴きたい。

情報誌の性格を高める一方、これまでの“格式の高い学術誌”としての評価も維持する方針です。論文については、投稿から掲載までの期間短縮を大きな目標として取り組んでおります。この一環として、掲載論文に原稿受付日と掲載受理日を明記するように致しました。投稿時に“よい”論文であったか否かは、この期間で定量的に評価できるとも言えるでしょう。近年、投稿論文原稿の質の低下も気になります。先月及び先々月号の編集後記における投稿論文への査読者の苦言、提案にこの状況がよく現れています(“よい”論文の最低必要条件が明記されており、ご一読を.)。査読は厳しいとの声も聞こえて来ますが、著者側にも責任のあることをよく認識して戴きたい。審査過程の校閲・査読はボランティア活動といっても過言ではなく、よい原稿を投稿下さるようお願いしたい。

年末に当たり、辛口の編集後記となってしまいました。我が国鉄鋼業にとって厳しい年でしたが、来春には明るさが望めそうです。また、先月の米国大統領選挙では民主党クリントン候補の圧勝となりましたが、公約の米国経済の立ち直りも期待したいものです。

よいお年をお迎え下さい。(Y. H.)

鉄 と 鋼 Vol. 78 No. 12 広告目次

表 2 鋼管計測(株) 試験分析サービス	前 6 丸本工業(株) 電解研磨装置	後 1 日本カノマックス(株) レーザ流速計
前 1 住友金属テクノロジー(株) 試験分析サービス	7 真空理工(株) 熱処理試験装置	2 坂井化学工業(株) フラックス
2 ジャパンマシナリー(株) 板幅測定装置	8 富士写真フィルム(株) 精密面状検査装置	(株)ヨシダキネン スエーピングマシン
3 横河電機(株) 工業用記録計	9 クマノエンジニアリング(株) 保磁力測定器	3 川鉄テクノリサーチ(株) 試験分析サービス
4 (株)ヘリオス 光ファイバ温度計	10 第一高周波工業(株) 誘導加熱装置	東京科学(株) ビートサンブラ装置
綴込 日本プライブリコ(株) 不定形耐火物	11 (株)島津製作所 万能試験機	4 (社)化学情報協会 材料物性データネットワーク
前 5 ミノルタカメラ販売(株) 放射温度計	12 (株)島津製作所 寸法測定装置	表 3 市村金属(株) 白金分析器其他
	13 (株)島津製作所 磁気式酸素計	表 4 日本アナリスト(株) 各種分析装置
	14 (株)堀場製作所 X線元素分析装置	